

京都帝國大學物理化學研究室編輯

物理化學の進歩

昭和四年七月刊行

第三卷 第二輯

目 次

原報

電氣運動ポテンシャル並に熱力學運動ポテンシャルの測定.....	古谷 登.....17
樟腦の蒸氣壓測定.....	窪川眞男.....42

紹介

低速度電子の衝突による化學變化.....	佐々木中二.....133
アルカリ金屬とハロゲンとの反應に就て.....	長田 葵男.....155
電氣運動現象特に流動電位に就て.....	市川 禎治.....169
減摩作用に就て.....	古谷 登.....189
減摩作用に就て.....	吉本 晴一.....198
London 著量子論と化學的結合.....	堀場信吉.....215

第三卷第三輯は昭和四年十一月發行の豫定であります。

本誌に關する批評注意要求等は京都帝國大學物理化學研究室内 市川禎治あてに願ひます。

昭和四年七月二十七日 印刷
昭和四年七月三十一日 發行

(年三回刊行)
物理化學の進歩
第三卷第二輯
定價 金壹圓五拾錢

編輯主幹 堀 場 信 吉

東京市赤坂區傳馬町三丁目十番地

發行者 佐 藤 正 叟

東京市京橋區弓町二十五番地

印刷者 高 橋 郁

發行所

東京市赤坂區傳馬町三丁目十番地

至 文 堂

振替東京二九五〇七番 電話青山 { 三五四六番
四三四三番

三協印刷株式會社印刷

京都帝國大學教授 理學博士 園 正造先生著

高等代數學

上 卷
(群 論)

定 價 金 八 圓 送 料 金 二 十 七 錢

近世代數學の劃期的發達を招致したものは實に十九世紀末に現はれた群と體との理論である。かの方程式の可解性に關する疑問や或は希臘以來未解決の儘で殘されてゐた作圖問題等に對し明快な解決を與へたものは此の理論である。更に代數學を新な展望の下に開展せしめたものも亦此の理論である。實に群と體とは現代の代數學の根幹をなし今や正に數學の一部門を形成するに至つた。尙群と體とは數學の他の部門にあつても或は奥底に潜み或は表面に顯はれて重要な役目を演ずる。されば現代の數學を究めんとする者には勿論、また廣く數學の基礎的考察をなす者に取つても必要缺くべからざる概念である。而もこれに關する著述は我が國に於ては皆無である。著者はこれを遺憾として兩者を上下二卷に分ち世界に於ける近世代數學の發達を大觀し更に自らの創意を加へて本書を完成するに至つた。著者は一般讀者の爲に微細の點に立入らず努めて大綱を掲げてその本領を容易に理解せしめることに意を用ひてゐる。實に本書は近世代數學の發達とその趨勢とを一目の下に瞭然たらしめる好個の著述である。

東北帝國大學教授 理學博士 大久保 準三 著

最新物理學講義

定價金六圓五拾錢 送料金廿七錢

本書は新制度の中等教育物理學教授要目に基いて物理學一般の知識を平易に且つ系統的に詳述して、其の概念を遺漏なく收得せしめると共に日常生活に於て屢遭遇する多くの事項をも加へ、物理學の實際的運用に資せしめんことを期した。就中其の基礎的事實並に其の原則・法則の物理學的意義を詳説し、其の根本的知識を理解せしめることに努めた。且つ物理學最近の發達をも述べ、力めて新知識を知らしめると共に、世界の物理學進歩の趨勢を明かにした。挿圖は物理學講義に極めて重要な地位を占めるものであるから、力めて多數に之を採用し、而も十分に意を用ひて直接實驗した實物寫眞を多く收め、機械器具の如きも多く實物の寫眞を以てした。尙各種類の計算を多數採録し、其の模範的解法を示し、何人にも直に要領を會得せしめるやうに心掛けた。

要するに本書は著者が豊富なる學識を以て物理學全般に亘り縦横に解説したるもの、此の點に於て全く類書を見ないので、中等學校物理學教員諸先生にとつては實に貴重なる教授資料に富む無比の寶典であり、また學生諸子は本書によつて中學程度以上の物理學を容易に自修し得るのである。實に本書は物理學專攻者、中等學校教師、學生、高等諸學校受験生その他苟も物理學を學ばんとする者萬人必備の最高模範的講義たる良書である。

京都帝國大學物理化學研究室編輯

物理化學の進歩

年三回刊行

第一卷第一輯目次 (大正十五年) 定價金壹圓五拾錢 十月刊行

化反應學の副射説。一次反應の機構に關する Roy の説に就て.....	理學博士 堀 場 信 吉
Dalton 氏分壓の定律に對する違背に就て.....	四手井次太郎
興奮水銀分子による水素分子の活性化に就て.....	近 森 誠 一 郎
電氣放電による活性水素に就て特にその化學的動作に就て.....	市 川 禎 治
ニツケル。銅觸媒の存在に於ける水素の臨界電壓.....	李 泰 圭
アトムストラーレン.....	城 野 和 三 郎
鹽素及び水素の光化學結合に就て.....	市 川 禎 治

第一卷第二輯目次 (昭和二年) 定價金壹圓參拾錢 三月刊行

鹽素及び水素の光化學結合に就て(第一報).....	{ 理學博士 堀 場 信 吉
特種の膠質系に對して「ワイゲルト効果」の擴張.....	{ 理學博士 堀 場 信 吉
(第一報).....	{ 堀 今 堂 健 雄
界面電位に就いて.....	志 方 益 三
最近の赤外スペクトルの研究.....	石 野 俊 夫
a-Particles による化學作用.....	陳 之 霖
強電解質論.....	堀 場 信 吉

第一卷第三輯目次 (昭和二年) 定價金壹圓五拾錢 七月刊行

簡單なる石英又は硝子製壓力指示計に就て.....	理學博士 堀 場 信 吉
濃厚水溶液の蒸氣壓測定.....	古 谷 登 雄
焼付及び鍍銀により反射回折格子を作る方法.....	今 堂 健 治
氣態反應速度論(衝突説).....	市 川 禎 治
赤外線吸收バンドスペクトル。最近の赤外線スペクトル.....	石 野 俊 夫
の研究(第二).....	古 谷 登 雄
過マンガン酸還元作用機轉に就て.....	城 野 和 三 郎
モレキュラーストラーレン.....	李 泰 圭
ラングミーアの觸媒理論.....	堀 場 信 吉
光化學作用と生命.....	理學博士 堀 場 信 吉

第一卷第四輯目次 (昭和二年十二月刊行) 定價金壹圓五拾錢

ポーラログラフに依る銅錯鹽の研究(第一報).....	志方益三
混合氣體の Dalton の分壓定律に對する化學的原因に基く違背に就て(第二報)——鹽化水素—水蒸氣.....	理學博士 四手井次太郎
鹽化ナトリウム並に鹽化カリウムの蒸氣壓測定.....	理學博士 堀場信吉
Langmuir 氏の觸媒理論(其二).....	馬場日出男
ゾルの流動による異方性に就て.....	李泰圭
コロイド粒子大さ決定に關する諸法.....	城野和三郎
興奮水銀原子による光化學感應に就て.....	石井新次郎
酸化銅電極に對する Becquerel 効果の研究に就て.....	樋本朝亮
化學原子價に就て(講演).....	速水永夫
	理學博士 堀場信吉

第二卷第一輯目次 (昭和三年四月刊行) 定價金壹圓五拾錢

樟腦の蒸氣壓測定(豫報).....	吉本晴一
三沃化砒素の蒸氣壓測定.....	理學博士 堀場信亮
還元ニツケルの存在に於ける一酸化炭素の分解(豫報).....	理學博士 堀場信吉
特殊の膠質系に對して「ワイゲルト効果」の擴張第一報.....	理學博士 堀場信健
結晶水の結合狀態に對する分散度の影響に就て.....	(補遺) 萩原篤太郎
新量子論.....	田村松平
筋肉收縮と筋肉に依る化學的作業.....	古谷登
膠質系の平衡に就て.....	陳之霖

第二卷第二輯目次 (昭和三年八月刊行) 定價金壹圓參拾錢

光による膠質の生成(第一報)・銀膠質の生成.....	理學博士 堀場信吉
銀膠質生成の新方法.....	陳之霖
光化學の基礎法則.....	石井新次郎
最近に於ける接觸々媒理論.....	市川禎治
五酸化窒素の分解に就て(一分子反應).....	李泰圭
生物に對する光の作用.....	城野和三郎
膠質系の滲透壓.....	古谷登
流動性物質に對する X 線の研究.....	馬場日出男
	國澤米次郎

第二卷第三輯目次 (昭和四年) 定價金壹圓五拾錢

ポーラログラフに依る銅錯鹽の研究.....	{志木 方田 益 三
ワイゲルト効果の研究(第二報)主に光鹽化銀に就て.....	今 堂 健 雄
光による膠質の成生(第二報)銅膠質の生成.....	{理學博士 堀 場 信 吉
	石 井 新 次 郎
有機化合物の極性に關する一般的考察.....	{志木 方田 益 三
	庄 司 謙 次 郎
	渡 邊 護 勇
	館 内 山 一 郎
	河 佐 藤 金 次 郎
	本 多 眞 一
分子スペクトルの分類及び定理の進歩に就て.....	石 野 俊 夫
分子薄膜の構造.....	石 井 新 次 郎
化學工業上の新手段.....	理學博士 喜 多 源 逸

第三卷第一輯目次 (昭和五年) 定價金壹圓五拾錢

或種の膠質の滲透壓に及ぼす光の影響.....	{理學博士 堀 場 信 吉
	馬 場 日 出 男
有機化合物の極性に關する一般的考察(其二).....	{志木 方田 益 三
	庄 司 謙 次 郎
	渡 邊 護 勇
	館 内 山 一 郎
	河 佐 藤 金 次 郎
	本 多 眞 一
液體內に於ける光の分子散亂並にラーマン効果.....	今 堂 健 雄
光電池.....	速 水 永 夫
沈降分析に遠心機の應用.....	小 田 切 瑞 穂
透電恒數.....	磯 谷 延 治
有機化合物のエン트로ピー計算の必要.....	理學博士 堀 場 信 吉